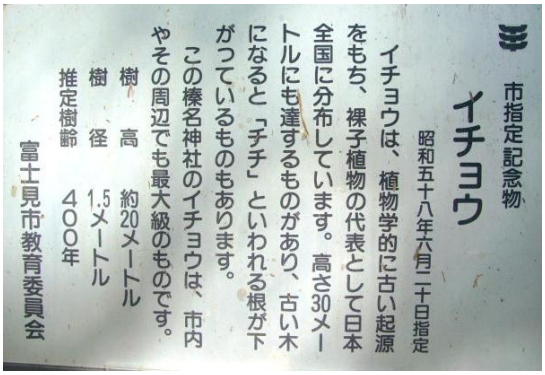
平成 25 年 5 月 18 日

つるせ公民館まつり　プレ郷土富士見検定　解説

【問題１解説】勝瀬の榛名神社境内に市指定天然記念物の銀杏（イチョウ）があります。樹齢約 400 年・樹高約 20m・幹周約 4.7mです。銀杏には雄木と雌木があり、雌木のみに果実を付け「ぎんなん」と呼び 11 月頃熟成し落下します。食用として好まれるが、食べ過ぎると（特に幼児）中毒になることがあります。昔から、銀杏には気根と呼ばれる垂れ下がった乳房状の突起が生じ雌木（めぎ）に祈願（きがん）すると乳の出が良くなると伝えられています。

答え②

榛名神社の銀杏



市指定記念物

イチョウ

昭和五十八年六月二十日指定

イチョウは、植物学的に古い起源をもち、裸子植物の代表として日本全国に分布しています。高さ30メートルにも達するものがあり、古い木になると「チチ」といわれる根が下がっているものもあります。

この榛名神社のイチョウは、市内やその周辺でも最大級のものです。

樹　高　約20メートル
樹　径　1.5メートル
推定樹齢　４００年

富士見市教育委員会

【問題２解説】メタセコイアは、スギ科の落葉針葉樹です、和名は曙杉と言い、成長すると樹高 25～30m・直径 1.5mくらいになります。化石として発見されたため絶滅種とされていましたが、1945 年中国四川省で現存することが確認され「生きている化石」と呼ばれています。日本では学校や公園に植えられることが多く、市内の学校の多くに 2 本くらいずつ植えられています。特に富士見台中学校には大きな木が 2 本、勝瀬小学校には 10 本の並木があります。ほとんどが公園や学校で一番高い木に育っています。

答え③

【問題３解説】富士見市勝瀬にある桜並木は、勝瀬小学校付近から富士見ガーデンビーチまでの砂川堀両岸に約 160 本のソメイヨシノが植えられています。春には桜の花、初夏には新緑が楽しめる散策ルートとなって、市民の憩いの場になっています。

答え②

砂川堀の桜

【問題４解説】富士見市には主に 8 河川あります。橋は沢山ありますが、荒川に架かる富士見市の橋はありません。主な橋を川の上流から見ると次の通りです。

＜び　ん　沼　川＞　船渡橋・びん沼橋・砂塚橋
＜新　河　岸　川＞　新伊佐島橋・伊佐島橋・南畑橋・第１新河岸橋・
木染橋・岡坂橋
＜新河岸川放水路＞　東大久保橋・上手橋・金子街道橋・三本木橋
＜砂　　川　　堀＞　竹際橋・渡戸橋・花影橋・勝瀬橋
＜富 士 見 江 川＞　丸池橋・駒形橋・鶴馬橋・あすなろ橋・鶴関橋・
江川橋・打越橋・曙橋・油橋・寿橋・鶉橋
＜柳　　瀬　　川＞　富士見橋

答え①

【問題５解説】びん沼自然公園（東大久保）は、約 5.7 平方 km あり、平成 14 年（2002）4 月開設し、園内には在来種を中心にシラカシ・クヌギ・エゴノキ・ハンノキなど 4700 本が植えられています。１周 1.8km の園路がめぐり、見晴らしデッキ・芝生広場などがあり、野鳥や昆虫などの自然観察や、野外レクリエーションの場として市民に利用されています。平成 17 年（2005）「関東の富士見百景」にびん沼周辺が選ばれました。
答え④

びん沼川の桜

【問題６解説】勝瀬の鎮守榛名神社は明治初年までは神仏混淆のため神社と言わず、日本藤島榛名満行大権現といって、群馬の榛名神社とは関係が無いと言われています。創建は不明ですが、祭神は土の祖神である埴山姫命と、伊勢の外宮に祀られている五穀豊穣の神、豊受姫命の二柱の女神で、ともに農業の神です。このような神社は近隣にも例がなく、広く稲作農家の信仰を得て、ひいては雨乞いの祈願所となったようです。霊験については「富士見の伝説、むかしばなし」に、雨乞いをすれば必ず降ったと記載されています。
答え③

【問題 7 解説】明治 43 年（1910）、鶴瀬村大字鶴馬字渡戸（当時）の貝塚山と呼ばれる場所から開墾中に人骨、鉄刀が発見されました。人骨は氷川神社に、鉄刀は東京帝室博物館（現東京国立博物館）に納められました。その来歴は、第３保育所（山室）脇の「貝塚稲荷旧跡碑（通称コロボックルの碑）」に記されています。それによると、貝塚山古墳は直径約 18m、円周約 56m、高さ約 2.4mの円墳だったと推定されます。富士見市の文化財保護の原点といわれています。

答え②

貝塚稲荷旧跡碑

【問題８解説】板碑（板石塔婆）は亡くなった人や先祖を供養するためや生前に自分の死後の冥福を祈るための供養塔で､鎌倉時代から戦国時代に至る約 400 年間に造られました。石材となる緑泥片岩（りょくでいへんがん）の産地が荒川上流にあることから、県内に多く流通し、富士見市にも約 600 基が確認されています。市内で最古のものは、慈光寺跡（南畑新田）の建長４年（1252）６月１日銘の大型板碑で、続いて護国寺（勝瀬）の同年 11 月 8 日銘です。いずれも市指定文化財になっています。

答え③

慈光寺の大型板碑

【問題９解説】諏訪 2 丁目、富士見文化通りに面した字名「宿」の一角に「多門氏（おかどし）館跡」がありました。多門氏は徳川家康の関東入府に伴い、天正 19 年（1591）に領地をたまわり、多門平次郎（又は平左衛門）成正が鶴馬村（上鶴馬）に館を構えたところといわれています。今まで試掘・発掘調査が行われ、この館跡は室町・戦国時代にも使用されていた場所と考えられています。菩提寺は大眼山照光院浄円寺で、天正 19 年に徳川家康の家臣、多門平次郎成正が鶴馬村を領地とした際に浄土宗に帰依して、浄円寺（諏訪 2 丁目）を建てました。また、富士見台中学校の敷地は、多門氏と同時期に下鶴馬の地を知行した宮崎備前守の館跡と伝えられています。

答え④

【問題 10 解説】江戸時代、市内の村々は宿駅に人足（にんそく）や馬を提供する助郷村（すけごうむら）や伝馬役（てんまやく）となっていました。鶴馬村、勝瀬村は川越街道沿いの大井宿（ふじみ野市）の助郷村となりました。針ヶ谷村は中山道沿いの浦和宿（さいたま市）の伝馬役として馬を提供し、水子村は川越街道沿いの大和田宿（新座市）の助郷村になっており、大井宿、膝折宿（朝霞市）に馬を提供していました。助郷とは、主な街道の宿駅にいつも人馬がおかれていましたが、その需要に応じきれなくなり、近隣の村々から人馬をだすように命令されたものです。
　勝瀬村では川越街道に面した土地がなかったため大井宿の助郷割り当てが膨大でした。そのため、苗間村（ふじみ野市）の一部、茶立窪（ちゃたてくぼ）を入手し、負担を軽減してもらいました。

答え①

【問題 11 解説】昭和 17 年（1942）4 月の東京初空襲とその後の戦況の悪化により、東京を守る地上防空部隊の増強をせまられていた軍隊は、昭和 18 年（1943）7 月、通称「陣地」（じんち）を鶴瀬東地区の地主 14 名から土地を借り上げ、そこに照空部隊を配属させました。大隊、中隊の 140 名ほどが駐屯し、敷地内には兵舎の他に病院などの施設が配置されました。

答え③

【問題 12 解説】上沢の薬師堂（上沢 2 丁目）の境内に「上沢の百観音」ともいわれる百体の観音像が並んでいます。鶴馬村上沢の組頭（くみがしら）であった大曾根家の祖先が、寛政 10 年(1798) 頃から文久 2 年（1862）の 63 年にかけて、親・子・孫の三代にわたり、「西国 33 か所」「坂東 33 か所」、「秩父 34 か所」の百か所の札所（霊場）を巡礼し、三代目で全てを参拝しました。農閑期を利用して長い年月をかけて巡礼し、その徳を多くの人々に分けるために、大曾根氏の子孫が観音石仏の建立を計画し、建設資金は近隣の村人などの寄進によって行い、明治 2 年（1869）に建立し終わったと石碑に記されています。
答え③

【問題 13 解説】勝瀬の榛名神社は、祭神を「埴山姫命（はにやまひめのみこと）、豊受姫命（とようけひめのみこと）」の女神で「はんなさま」と呼び親しまれています。農業神として祀られ、4 月 10 日の祭礼日は、お囃子（はやし）が奉納され、植木市などが立ちます。境内には樹木も多く、イチョウの大木は樹齢 400 年を超すとされ、市の指定文化財になっています。当社には創立に関わる「お舟山伝説」があります。大昔、榛名神社一帯が海であった頃、榛名大権現・薬師如来・貝塚稲荷の三方が鉄の舟に乗っていたところ、運悪く舟が沈没し、貝塚稲荷は貝塚山に、薬師如来は西の方に、榛名大権現は大きな藤の木につかまり上陸し、現在の社に鎮座したといわれています。舟が沈没したところは「お舟山」といわれ、藤の木のあったところを藤島と呼ばれています。
答え④

【問題 14 解説】水子貝塚公園には資料館・展示館の他、約 6,000 年～5,500 年前の関東平野・奥東京湾の地図などのある説明広場、様々な学習や体験のできる学習広場、展望台、縄文時代の暮らしを再現している復元竪穴住居、貝塚のあった場所を示す貝塚表示、当時の森を復元した縄文の森などがあります。
答え④

【問題 15 解説】難波田城公園に移築された旧金子家住宅は、市指定文化財となっており、明治 4 年（1871）に建築された、約 54 坪の民家です。水子の金子家は、江戸時代末期から明治時代にかけて、農業のかたわら油商を営んでおり、現在も油屋という屋号で呼ばれています。正面西側の出入り口が商家に多い揚げ戸（あげど）になっています。そのためか、土間も広く、かまども目立たない場所にあります。間取りは、田の字型に区切られた 4 部屋で、「四つ間取」と呼ばれています。

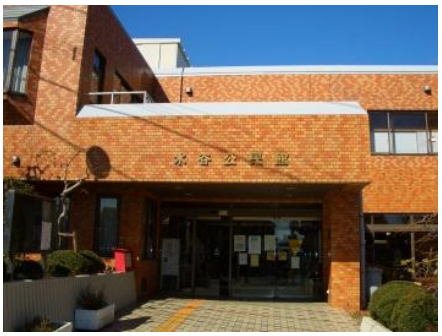
答え③

旧金子家住宅

【問題 16 解説】終戦直後の社会教育活動は、青年団と婦人会がその中心でした。その後、昭和 31 年（1956）の合併の翌年に、鶴瀬公民館・南畑公民館・水谷公民館の 3 公民館が条例設置されて、独立した館(主に学校の空き教室を活用)はありませんでしたが青年学級や婦人学級、家庭教育学級や地区体育祭、敬老会など地域の社会教育活動の拠点となりました。昭和 39 年（1964）に大同博教育長が就任すると、富士見の社会教育は大きく展開しました。文化協会の発足や移動図書館車の配置、公民館施設の建設、社会教育職員の専門職配置など他市町村に先駆けて富士見の社会教育が発展しました。これらが評価され、昭和 57 年（1982）に第 22 回社会教育研究全国集会が富士見市で開催されました。

答え④

鶴瀬公民館



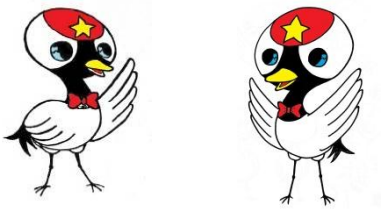
水谷公民館

南畑公民館

水谷東公民館

【問題 17 解説】鶴瀬公民館のマスコットキャラクターは、（現）鶴瀬公民館の開館 30 周年を記念して、平成 23 年（2011）に一般公募により決定いたしました。キャラクターは鶴瀬の“鶴”をモチーフとしており、頭に星印、両手（羽）には鉛筆と虫眼鏡を持ち、瞳は遠く富士山を見つめています。公民館利用者からは「つるちゃん」の愛称で親しまれています。
答え①

つるちゃん



【問題 18 解説】富士見市上沢の初代大曽根龍蔵氏が杯凧（さかずきだこ）をモデルに考案したものを扇凧（おうぎだこ）と呼びます。3 代目大曽根勝男氏の時に再興し、現在は扇凧保存会の方々や大曽根氏により受け継がれています。
答え④

【問題 19 解説】東武東上線の「鶴瀬駅」は大正 3 年（1914）5 月 1 日開設、平成 22 年（2010）現在 1 日の乗降客は約 4 万人で池袋起点より 22ｋｍです。鶴瀬駅の碑と鶴瀬駅停車場記念碑が鶴瀬駅ホームの上り線路脇（川越より）に設置されています。西口駅前の左手には富士見市の花である藤棚があります。
答え④

【問題 20 解説】「そらっぺこいだ」は鶴瀬地区の方言で嘘（うそ）云ったを、「がっこさがり」は水子地区の方言で小学校卒業後を「せー（い）かち」は南畑地区の方言で皂莢虫（さいかちむし）すなわちカブトムシの別称を意味します。
答え②

本日は「プレ郷土富士見検定」を受験していただきありがとうございました。
１１月１０日（日）に第２回郷土富士見検定を実施する予定ですので是非ご参加ください。

ＮＰＯ法人富士見市民大学